

## 令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ <b>県</b>		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立口吉川小学校	三木市教育委員会	国・ <b>公</b> ・私

## 1. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

## (3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

## ア 実施体制

外国語活動担当者を中心に、組織的に外国語活動に取り組む。また各学年の学習内容を考慮し、市で統一した外国語活動の年間カリキュラムモデル例をもとに、系統的な外国語活動となるよう学習カリキュラム等を立案する。各校の外国語担当者で組織する外国語研修部会は、研究授業や実践事例に関する協議などを通して、各校の取組を交流し市内全体で交流するとともに、検証しながらよりよいものとする取組を進めている。

評価については、各学校における児童・生徒の外国語活動の振り返り結果から授業改善に取り組む。

## イ 指導計画及び授業の内容

第1・2学年では英語にふれながら表現を楽しむことをめざす。ALTや友達と簡単な英語で気持ちの良いあいさつをしたり、ゲームや歌を歌うなどの活動において、簡単な英単語にふれ、「話す」「聞く」ことから単語を習得したりする。また、特別活動及び他教科・学級活動を活用して、色や数を英語で表現したり、ハロウィン・クリスマスなどの季節の行事で用いられる英語の表現を学んだりする。

特に低学年という発達段階を考慮し、授業だけでなく、休み時間や給食の時間、清

掃時間などにALTとともに時間を過ごし、少しでも英語を身近に感じることができるよう工夫する。

#### (4) 情報提供の状況

保護者や地域の方々に参加いただく学校行事において、自校担当のALTを紹介する。また、外国語活動の様子をホームページで紹介する。

#### (5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 : 平成 28 年 4 月 1 日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 令和 2 年 4 月 1 日
- ・ 取組の終期 : 今後も継続した取組を予定

### 2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標は、「学びの楽しさ あふれる子の育成」である。子どもたちが自らの課題に対して全力で取り組み、自分の思いや考えを語り、豊かな心で自立して仲間と協働しながら主体的に課題解決を図り、それを成し遂げた自信をさらなる意欲につなげて「学びの楽しさに満ちた魅力ある学校の創造」を目指している。そこで、教科指導の重点として、外国語活動では、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

#### (2) 実施の効果

小学校という発達段階は、新しい言語を急速に吸収することができる年代である。特に1・2年生はその点が顕著であり、そうした年代において、歌やゲーム等で英語を発話したり、聞いたりすることによって、自然な発音やアクセントの練習を早い段階から行うことができた。また、英語でのあいさつや簡単な表現にチャレンジするために、「話す」「聞く」体験により簡単な単語を身に付けることで、英語への抵抗感を小さくすることができた。さらに、アルファベットの音を学習するフォニックスを毎時間の初めに取り入れたり、ALTのネイティブな英語に触れたりすることにより、英語特有の発音を聞き取る機会を早い段階から設定することができた。担任もALTと協力して外国語活動を進めることで、教材の効果的な使用方法や、歌やゲームの指導方法、キーワードの使い方を工夫するなど、外国語活動の指導力が高まった。

#### 4. 課題の改善のための取組の方向性

三木市全体の小学校で特別な教育課程を成しているため、同一步調で英語活用能力の向上を図る必要がある。今年度も、コロナ禍で教職員の研修会がなかなか持てなかったが、昨年度に引き続き、外国語研修部会を中心に授業プログラムやカリキュラムの検討を行った。とりわけ、フォニックスについては、英語の学習の基礎基本となるため、外国語担当だけでなく、どの教職員にも、その意義や指導方法を共通認識しておく必要があった。そこで、教職員専門研修講座で専門の講師から学び、本校においても、各学級での指導をそれぞれの学級担任が行えるようになったことは成果である。一方、授業プログラムやカリキュラムなどの指導内容、指導方法と共に、指導と評価の一体化を目指し、評価方法についても研究する必要がある。本教育課程の目標が、英語にふれながら表現を楽しむことにあることから、学習に取り組もうとする態度を評価する場面が多くなる。その考え方や具体的に見取る方法などをICTの利点も活用しながら研究し、第3学年以上の外国語活動、外国語に繋がる評価となるよう取り組んでいきたい。こうした授業プログラムやカリキュラムを実践する教職員の指導力向上、評価に関する研究などをテーマとし、教職員研修の充実を図りたい。